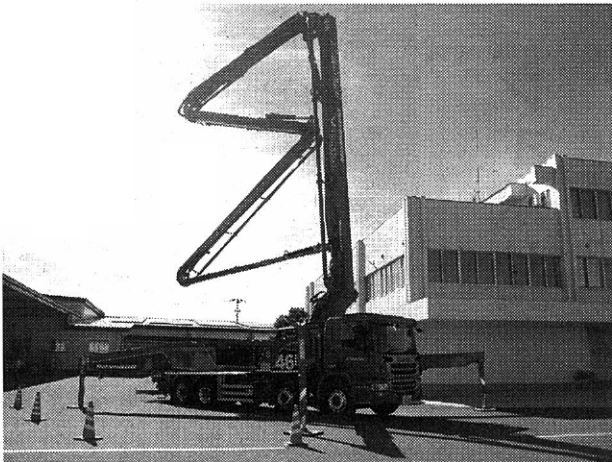


# プツ社社長が訪問

## ヤマコン 46mブーム車を納車

ドイツの大手建機メーカー、プツマイスターのマーチン・クノートゲン社長（プツマイスターグループCEO）が23日、ヤマコン



国内2台目の46mブーム車

ン（山形市、佐藤隆彦社長）を訪問した。ヤマコンは同日、プツ社が開発した46mブームを持つコンクリートポンプ車の納車式を行

い、クノートゲン社長の訪問に花を添えた。クノートゲン社長は日本は重要なマーケットであるとした上で、「機械の販売だけでなく、生産性向上に寄与することができる製品を投入していきたい」

と述べた。また、「積極的な投資を行い、日本の市場に合った商品開発を進める」とし、ニーズに合致した製品を開発する方針を示した。また、ヤマコンが導入したウルトラロングブームコンクリートポ



左からヤマコンの佐藤勝彦会長、佐藤社長、プツマイスターのクノートゲン社長、リンデンマイヤー・アジア・大洋州CEO、プツマイスタージャパンの岡社長

ンブ車「BSF46-5.16H」は、人手不足の解消と安全性の向上を図ることができる車両として注目を集めている。プツマイスタージャパンの岡勇樹社長は「生産性向上に資する車両だ」と述べた。同車はブームの長尺化で配管設置作業が省略できるので、省力化につながる。足元に配管を設置しないため、施工現場の安全性も向上する。国内では早水圧送に次いで2台目となる。

ヤマコンは同車を関東で主に活用するが、重量規制に伴う特別緩和で全国の主要道路が通行できる強みを活かして、「関東だけでなく、仙台など東北でも活用する」（佐藤社長）としている。